

**狛江市市民活動支援センター
こまえくぼ 1234
令和4年度事業報告書**



**社会福祉法人
狛江市社会福祉協議会**

《 目次 》

1	はじめに 総括	2
2	指定管理業務の実施	
2-1	相談	9
	(1) 一般相談 (2) 専門相談	
2-2	交流・ネットワーク	12
	(1) 団体交流事業 (2) ネットワークの支援	
	(3) 市民活動との協働事業、企業等の社会貢献活動の推進	
2-3	情報の収集と発信	14
	(1) ホームページ等の活用の推進	
	(2) 新しい形での情報発信の推進	
2-4	市民活動の拠点	16
	(1) 団体によるチャレンジ事業	
	(2) 閲覧しやすい資料コーナーの設置	
2-5	その他市民活動の推進に必要な事業	17
	(1) 市民活動参加の機会の充実 (2) 団体向け講座	
	(3) 社会資源活用の推進 (4) 市民活動の側面的支援	
	(5) 近隣及び都域の市民活動センター等との連携	
	(6) 調査・研究 (7) その他	
3	施設管理	26
4	指定管理業務の収支状況	27
5	その他指定者が指示する事項	28
5-1	施設の維持管理	
	(1) 清掃業務 (2) 修繕 (3) 施設点検 (4) その他整備など	
5-2	サービスの維持向上	
	(1) 利用者からの要望 (2) その他	
	資料	
	(1) 主な事業の実施報告書	29

1

はじめに 総括

令和4年度の重点取組

◆情報発信の実施と定着

令和3年度から新しく発行した「広報紙こまえくぼ 1234」と「狛江市市民活動・生活情報誌わっこ」による情報発信を定着させていきます。

コミュニティ FM（コマラジ）の番組コーナーでの市民活動団体紹介、屋外掲示板による団体情報の発信等それぞれの発信ツールにより情報発信の内容、役割を明確にします。

市民活動に関する情報をさまざまな情報発信ツールを活用して多くの市民に届けられるようにしていきます。

◆市民活動団体、事業所との連携による事業実施

潜在的な活動層である市民が支援センターを知ることによって市民活動に関心を持ち、支援センターの新たな利用と市民活動の活性化につながるような取り組みを支援センター開設5周年記念イベントで築かれた関係性や市民活動団体、事業所等と連携して行っていきます。

市民活動に関心を持った市民にとって参加機会となるようなイベント開催等を推進するために支援センターのフリースペース等を市民活動団体等が活用できるように支援を行います。

◆新たな課題への取り組みと検討

オンラインを活用した新しいスタイルを「ウィズコロナ社会」における市民活動として検討、取り組んでいきます。相談や市民活動に関する調査結果から今後、支援センターとして取り組むべき課題について検討していきます。

令和4年度は、上記重点項目に取り組み、市民活動の活性化を図ることを目標として事業運営をいたしました。新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館、入館人数や利用時間の制限は実施しませんでした。前年度から続く感染拡大防止対策を取りながら狛江市市民活動支援センター（以下「支援センター」という。）を運営しました。

人と人がふれあうことで繋がる市民活動は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大から3年間を経過し、感染状況にあわせた対策をとるなど活動形態を変え、工夫しながら実施されました。

支援センターとしても感染拡大防止と市民活動の推進の両立を大きな課題として様々な形で情報発信をしながら市民活動に関わる団体の皆さんに寄り添い、共に考えながら事業運営を行いました。

情報発信の実施と定着

■広報紙の発行と定着

「広報紙こまえくぼ 1234」「狛江市市民活動・生活情報誌わっこ（以下「わっこ」という。）」に市民活動団体、支援センターからの情報を令和3年度から掲載しています。

「広報紙こまえくぼ 1234」では、支援センターの事業周知、事業実施報告をするとともにラジオ出演した市民活動団体の紹介、新しく活動を開始した団体の紹介などを掲載しました。広報部会の作成した記事は「広報紙こまえくぼ 1234」「わっこ」の双方に取材から原稿作成までを行い市民の目線で気になる記事を掲載することができました。

「わっこ」に掲載されたイベント情報を見て、支援センターで実施している「切手カフェ」「おりがみサロン」の参加について問い合わせをいただくことが増えました。また、市内小学校・中学校に配付する「広報紙こまえくぼ 1234」の発行号では読者アンケートを掲載、読者からの声も頂戴し紙面づくりの参考にしました。

読者アンケートプレゼントの実施

「広報紙こまえくぼ 1234」に関する読者の声を集めるため読者アンケートを「支援センター開設 5 周年記念イベント」で協力いただいた事業者からのプレゼント付きで実施しました。「市民活動団体について情報が得られた」「団体の活動について初めて知った」などのご意見をいただきました。

【読者アンケートプレゼント協力事業所】

- ・茨城県境町観光協会
- ・愛知県西尾茶協働組合
- ・石川酒造（福生市）
- ・NPO 源流みらい



■ラジオでの情報発信の定着

狛江ラジオ放送株式会社（以下「コマラジ」という。）の番組コーナーに市民活動団体が出演して紹介をする放送が開始されてから 2 年を迎えました。

当初は、コマラジ出演に慎重であった市民活動団体も自ら出演を希望するなど市内で活動する市民活動団体が自ら情報を発信する貴重な場として活用されてお

り、今年度は24団体が出演しました。コマラジ出演にあたり市民活動団体内ではアピールするポイントについて打ち合わせを行ったり、団体設立の経緯などを再確認する機会にもなっています。支援センターは、団体が出演しやすいよう出演資料の記入様式作成や団体からの相談を行いました。出演した市民活動団体を「広報紙こまえくぼ1234」で紹介、出演時の音源をホームページに掲載するなどコマラジ・広報紙・ホームページを連動させた市民活動団体の紹介を定着させました。

支援センターもコマラジの複数の番組に出演してセンター事業の紹介やイベント、講座の開催周知など情報発信に努めました。

コマラジ出演団体の声 ※抜粋

- ・パーソナリティの方が素晴らしく喋りの下手な私をフォロー、全てまとめる、見事なプロの仕事！感激！
- ・ラジオ出演なんて生まれて初めてのことで、しかも生放送ということで！躊躇しました。ちょうど団体開設20周年でしたので、記念にもなった。”会発足の経緯”や”スタッフの思い”は、今までを振り返るきっかけになった。
- ・初心にかえり、振り返ることもできて、自身が市民団体を立ち上げた意味を思い返している次第です。
- ・本番で緊張してしまい自分が何を話しているのかわからない状態でした。でも後から録音を聞いてみると、私が混乱していても、ちゃんと話を合わせてまとめてくださっていました。周りからの評判も良く、出演して良かったと思いました。



■Twitterの運用開始

多くの市民に情報を届けるため、10月1日よりTwitterでの情報発信を開始しました。運用開始にあたっては、情報が届く世代や情報発信の目的を考え運用するSNS媒体を決定しました。

今後は、ボランティアや市民活動に関心を持つ層に情報を届ける方法を検討していく必要性も感じました。



市民活動団体、事業所との連携による事業実施

■こまえくぼ 1234 フェスティバルの開催

令和3年度に実施した「支援センター開設5周年記念イベント」の開催を契機に集まった実行委員会が「こまえくぼ 1234 応援隊」として新たに組織化されました。支援センターを多くの市民に知っていただき市民活動団体・事業所がつながり、ボランティアや市民活動に関心を持つ人材を掘り起こそうと年2回のイベントを開催しました。

6月（第1回）には、支援センターを会場として、駐輪場では物産展と社会貢献登録事業所の出店、館内では市民活動団体による活動の成果の発表が行われ、412人が来館しました。



11月（第2回）には、えきまえ広場と支援センターを会場として開催しました。えきまえ広場では市内小学校・中学校おやじの会を中心に学校の枠を越えたイベント、物産展を開催しました。支援センターでは、「第6回狛江☆サミット（麻宮 百さん講演会）」を共催で開催するとともに市民活動団体によるワークショップや体験会、活動報告などが行われました。



えきまえ広場と支援センターの2つの会場を結ぶスタンプラリーも開催、全体で2,588名の来場がありました。「広報紙で知っていたが初めて来館した」「子どもに連れられて来た」「いろいろな情報があることを知った」などの声をいただき、イベントをきっかけに支援センターを知ってもらう機会になりました。

■社会貢献事業所との連携

社会貢献事業所（以下「CSR事業所」という。）として登録しているアクアクララメトロポリタン・COUP DE COERUの2事業所には「こまえくぼ 1234 フェスティバル」に出店協力をいただきました。イベントに来場した市民がCSR事業所を訪れるなど地域で社会貢献を含めて市内で活躍されている事業所を知っていただく機会にもなりました。

また、昨年度に引き続き体験学習イベントでのタブレット端末無償貸与（ドコモショップ狛江店）、ベネッセ狛江南保育園との安心安全なまちづくりイベントで

の5種類の苗の提供と栽培方法の指導（JA マインズ狛江支店女性部）で支援センター事業に協力をいただきました。

ベネッセ狛江南保育園との安心安全なまちづくりイベントでは、園児が育てたお花を市内に飾る店舗として狛江駅周辺の6つのCSR事業所（木村メガネ・藤田不動産・絹山不動産・みずほ銀行狛江支店・au ショップ狛江店・ドコモショップ狛江店）にご協力をいただきました。

支援センターの事業を中心とした社会貢献活動の輪が広がりつつあります。

園児の育てたお花が市内6店舗に！

地域の防犯を目的として JA マインズ狛江店女性部とベネッセ狛江南保育園（年長 12名）の協働を実施しました。園児が植えて、育てたお花を市内 CSR 協力事業所（6事業所）の店頭に飾りました。

園児が一生涯懸命育てたお花が市内事業所にバトンが渡されました。その後、園児と保護者がお花を飾られた店舗を訪れるなど地域交流にもなりました。



新たな課題への取り組みと検討

■団体基盤の整備

団体登録の更新にあたり、団体規約・事業計画・事業報告などの提出を更新希望の市民活動団体に求めました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により団体活動が止まった期間を経て、団体運営が不透明になっているという課題があります。団体登録の更新にあわせて、団体運営にあたってのルールづくりや財源確保などの基盤の重要性について団体講座、個別の相談でフォローを行い、団体運営を継続していくための基盤づくりを支援しました。

■児童・生徒への日本語支援の団体化と協働提案事業

狛江市内の小学校でも日本語支援を必要とする外国人児童が通学しており、こうした外国人児童が一日でも早く学校生活に慣れる環境づくりと日本語の理解が難しく子どもの学校生活について理解に時間がかかっている保護者への支援を進めるために昨年度に市民活動団体「にほんごしえん」としての活動開始を支援し

ました。

支援の希望は増えて、中学校からも希望が届き今年度は、小学生・中学生 15 名をボランティア 42 名で支援をしました。活動を実施するにあたり放課後ボランティア支援、週末の「にほんごサロン」の開催、やさしい日本語翻訳など団体として取り組む活動を明確にしました。

支援場所の確保や支援する人材の輪を広げていくという課題もあるため、市民活動と公的な支援との連携などの提案を進めるために団体として自立した運営の必要性も出てきました。活動者も増えてきた中で団体としての活動を推進するために粕江市協働提案事業にエントリーしました。支援センターは団体が自立した運営ができるように支援していきます。

学びと交流の場

「にほんごサロン」

市内小学校、中学校に通う外国籍の児童・生徒とその保護者が気楽に日本語を学び、交流できる場所として市民活動団体「にほんごしえん」による「にほんごサロン」が月 3 回開催されています。

多くのボランティアによる日本語の学習とあわせて、それぞれの国の文化や風習などをお互いに学ぶ機会となっています。



■コロナ禍で制作した動画の活用

新型コロナウイルス感染症が流行した令和 2 年度当初、小学校・中学校の臨時休校やオンライン授業が行われていた時期に市民活動団体などの協力をいただき学校で行われていた出前授業を体験できる「福祉体験学習動画（障がい者理解）」、多摩川水害について当時の様子を伝える「1974 年多摩川水害から学ぶわたしたちの防災」を制作しました。

新型コロナウイルス感染症による行動制限が見直され、実体験での出前授業を希望する学校が増えました。そうした中で児童・生徒の理解を深めるための事前学習として制作した動画を視聴してから実体験をするという動画を活用した出前授業のスタイルができました。

また、ゲスト講師にはオンラインを活用して画面上で参加していただくなど感染対策に配慮した形でも実施しました。

体験授業をボランティアとともに…

小学校・中学校の福祉体験授業は、支援センター職員が中心となり実施していました。児童・生徒に福祉体験をする機会であるとともに市民の皆さんにも福祉体験を経験してもらい、講座で体験して感じたことを伝えてもらいたいという考えから「出前授業サポーター養成講座」を開催しました。

大人が学んだことを子どもたちに伝える活動として学校での福祉体験授業にボランティアとして参加しています。



2

指定管理業務の実施

2-1

相談

支援センターの中心機能である相談事業は、相談内容から課題を相談者と共有し、課題解決につながるように相談者に寄り添いながら方向性を見つけ、地域資源につなげていくことを目指して実施しました。

(1) 一般相談

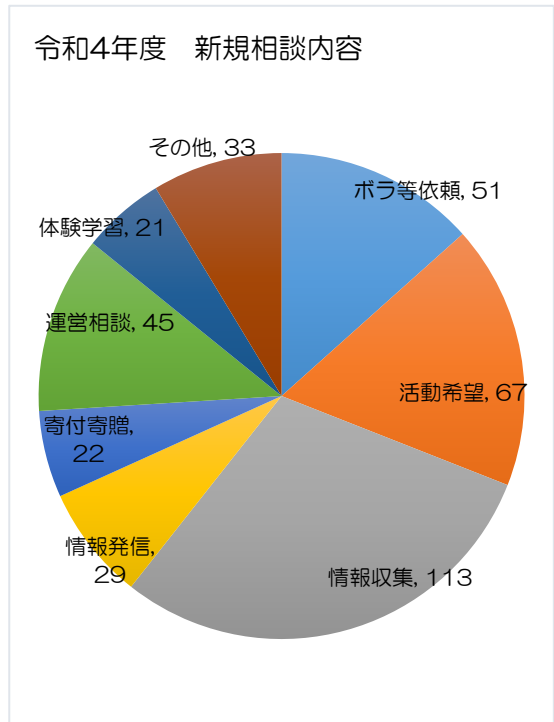
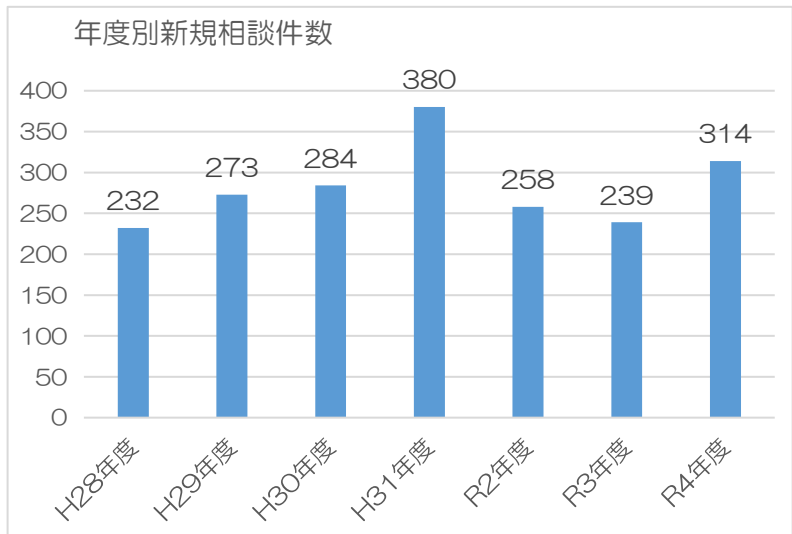
令和4年度の新規相談件数は、昨年度より75件増加の314件でした。

新型コロナウイルス感染症による極端な行動制限がなくなり、支援センターも年間を通じて相談を受付けることができました。

相談内容は、ボランティアや市民活動団体に対する団体や施設などからのボランティア依頼は新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少したままであること、また感染予防策としてボランティアや市民活動団体の受け入れを制限している団体や施設が多いためボランティアや市民活動団体にとっての活動場所が減っている等の状況が続いています。

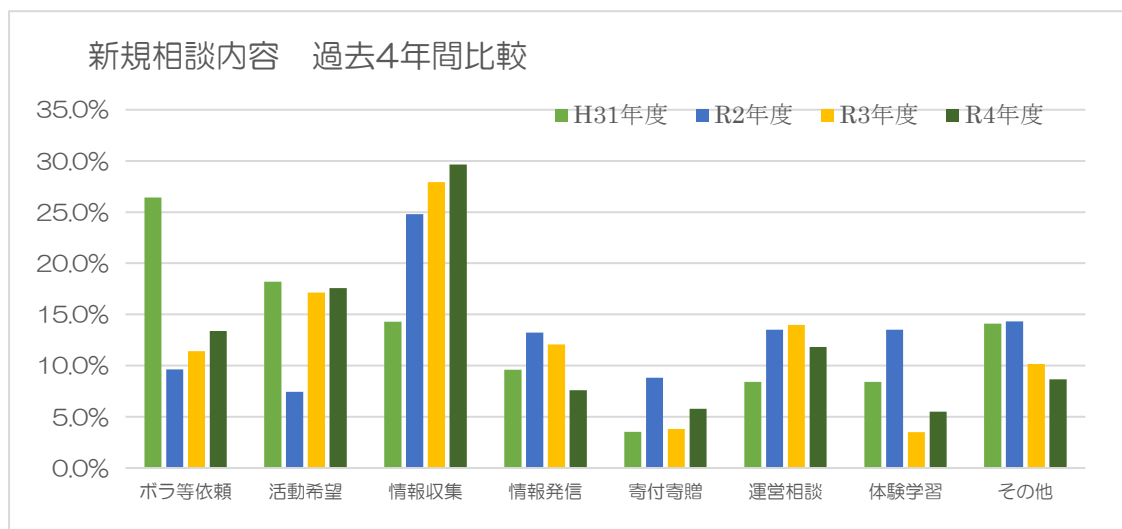
また、支援センターとの相談を経由して立ち上がった団体が6団体ありました。新型コロナウイルス感染症の影響があった期間に企画を練り、活動を形にした団体が目立ちました。

支援センター登録に向けての団体運営の相談、支援センターのホームページやコマラジを使った情報発信の活用や必要な情報



の提供なども行いました。

一方で長年にわたり市内子ども食堂活動をしていた市民活動団体や地域のイベント、高齢者施設の訪問で活躍されていた音楽団体が今年度で活動を終了するという報告もありました。高齢化やメンバーの体調不良、ライフスタイルの変化等から活動休止を継続したままの団体もありました。



■主な相談事例

相談内容	対応	結果
(任意団体) 小中学生の居場所の活動を考 えている。 まずは、保護者も一緒に参加 できる場所を考えていきた い。	予定している活動内容や 準備状況について聞き取 り。	市内で同様の活動をしている 団体情報の収集や自団体の活 動プログラムをまとめて準備 をしておくことなどをアドバ イスした。
(NPO) 事業運営のためにアルバイト 募集の記事をホームページや 広報紙に出したい。	NPOとして出したい情 報について確認した。 NPOの運営支援として 人材確保は重要である が、センターのホームペ ージなどで金額を明記し た求人を掲載することは 好ましくないこと、問い 合わせ対応もできないこ とを伝える。	「スタッフ募集中・詳細はお 問い合わせ」という形で掲載 する方法を提案した。 あわせて会報内などに情報を 挟み込んだりする方法も提案 した。
(個人) ホームページに掲載されてい るデイサービスでのボランテ ィア（ネイル、ハンドマッサ	デイサービスに確認した ところコロナ感染の危険 があるためボランティア	認知症カフェにハンドマッサ ージボランティアとして参加 した。

ージ) 募集情報に参加してみたい。	の受け入れは行ってないとのこと。 地域包括支援センターが開催している認知症カフェでの活動を提案する。	認知症カフェの会場を提供しているデイサービスより通所者のネイルケアをボランティアとして行ってほしいとの依頼があった。
(他県某市社会福祉協議会) 福祉教育推進の動機づけとして動画を制作したい。	東京ボランティア・市民活動センターが発行した「市民活動コーナー・ハンドブック」を見て当センターに質問をしてきたことを確認した。狛江での取り組み、事前準備などについて情報を伝えた。	市社会福祉協議会での動画制作に向けての検討材料として狛江市市民活動支援センターでの取り組み事例を活用していくこととなった。
(個人) メンバーに定例会の出席を強制するなど所属している団体の運営方法に疑問がある。	団体運営で課題に感じていることについて聞き取りを行う。課題になる部分について一般的な考え方として厳しいルールをメンバーに求めるとメンバーの定着や継続につながらないことを伝えた。	今までのやり方にとらわれず、次代に合ったやり方を考えることも活動継続のためには必要という意見を参考に考え方を整理して団体の会議で意見を伝えてみることになった。

(2) 専門相談

新型コロナウイルス感染症の対策として市民活動団体の運営や活動に関する悩みや課題を相談できるオンライン専門個別相談を実施しました。

一般相談の内容を受けて団体の会計、税金に関する専門的な相談があり、専門相談員によるオンラインでの相談を2団体に実施しました。オンライン環境を活かして相談者のタイミングに合わせた専門的な個別相談ができる環境を整えていく必要を感じました。

実施日	専門相談内容	専門相談員
令和4年7月8日(金) 令和5年3月3日(金) ※zoom開催	会計・税金・労務に関する相談	公認会計士・税理士・CFP 内藤 純 氏(内藤公認会計士事務所)

(1) 団体交流事業

■「子どもの居場所に関する市民活動団体の情報交換会」

昨年度開催した「狛江☆サミット mini」に参加した子育て分野で活動する団体から「子育て関係の新しい活動団体も増えたので、他の団体の活動を知りたい」という声を受け、関係団体による情報交換会を開催しました。

開催にあたり市・子育て関係部署とも調整を行い、呼びかけを行ったことで市内子育て支援機関などが多く集まり、想定を超える参加者数となりました。

類似する活動をしている団体同士でも顔を合わせる機会が少ないため情報共有の機会として今後も継続的に情報交換をできる機会を作っていきたいと考えています。

実施日	内容	参加者
令和4年 9月30日(金)	おもいをカタチ つながる@こまえくぼ 「子どもの居場所に関する市民活動団体の情報交換会」 市内で活動する子どもの居場所を運営する団体と市関係機関との情報交換	14団体 19名

■狛江市参加と協働市民推進フォーラム「狛江☆サミット」

「参加と協働市民推進フォーラム『第6回狛江☆サミット』」を狛江市市民参加と市民協働に関する審議会及び狛江市と共催で開催しました。開催内容についての運営委員による検討チームも狛江市市民参加と市民協働に関する審議会の実行委員と合同で協議を行い、今までボランティア・市民活動をしていない層にも関心を持ってもらうこと目的として、市内で読み聞かせボランティア活動をしている歌手・麻宮 百さんを講師に迎え、「こまえくぼ 1234 フェスティバル」との共催で開催しました。

当日は、定員を超える来場者があり、講演会後には「こまえくぼ 1234 フェスティバル」の参加団体の活動紹介等にも触れていただき、ボランティア・市民活動に関心を持っていただく機会になりました。



実施日	内容	参加者
令和4年 11月6日(日)	狛江市参加と協働市民フォーラム 第6回狛江☆サミット「一歩踏み出すコミュニケーション～やさしく、かろやかに、あたたかく～」 講師： 麻宮 百さん (歌手・元BBクイーンズ、Mi-Ke ヲバ-) コミュニケーションの大切さ、ボランティア活動から生まれるコミュニケーションについてお話いただきました。	50名

(2) ネットワークの支援

■ごはんと居場所連絡会

地域の居場所（食堂）を開催する市民活動団体が情報交換を行うためにネットワーク化の支援を平成29年度より開始し、翌年度に連絡会が発足、市内で活動をする子ども食堂団体も加わりました。

昨年度から新しく設立された子ども食堂団体も加わり、行政の関係部署との情報交換や企業からの食品提供の対応などもネットワークを通じて実施できました。

■視覚障害者関連団体連絡会

狛江視覚障害者の会が中心となり、支援団体の交流を目的とした連絡会を平成30年より開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり連絡会の開催は見送られましたが、メールでの情報発信などが行われました。

(3) 市民活動との協働事業、企業等の社会貢献活動の推進

■企業の社会貢献活動の推進

事業所による社会貢献活動（CSR活動）を周知していくためにホームページへの登録事業所の紹介とあわせて「広報紙こまえくぼ1234」にも紹介記事を掲載、登録事業所による社会貢献活動の報告もホームページで紹介しています。登録事業所数も55事業所となり、登録をきっかけに市民活動に対しての意識を持っていただけています。

登録事業所には、支援センター広報紙の設置や支援センター事業への協力だけでなく、地域イベントへの協力、狛江市社会福祉協議会の事業の協力など登録事業所による社会貢献のつながりが広がってきています。

(1) ホームページ等の活用の推進

支援センターでは、登録団体がそれぞれ専用のページを持ち、活動の様子やお知らせしたいことなどの情報発信ができるホームページの役割は重要になってきています。支援センターとしては、ホームページを活用しての情報発信を市民活動団体に促し支援しています。

■ ホームページ勉強会

登録団体が支援センターのホームページを活用して情報発信ができるようにホームページ部会が中心となりホームページ活用の事例紹介や情報発信に関する勉強会を実施しました。

ホームページでの団体による新規投稿の頻度が全体のアクセス数につながるため、積極的な情報発信につながるよう支援を行いました。

実施日	内容	参加者
令和4年 6月4日(土)	おもいをカタチに 学ぼう@こまえくぼ ホームページ利用勉強会 ～こまえくぼのHPであなたの活動を知らせてみませんか～	9団体9名

(2) 新しい形での情報発信の推進

■ 「粕江市民活動・生活情報誌わっこ」への情報掲載

広報部会でテーマや取材先を協議・検討、作成した「こまえがお mini」として「わっこ」に年3回掲載されました。広報部会による記事は、活動情報の発信ではなく活動している個人の想いを丁寧に拾い上げ、広報部員の思いものをしています。市民がつくる市民目線での記事スタイルを継続していくために次年度からは「広報紙こまえくぼ 1234」の紙面を中心に広報部会が作る「こまえがお」の記事を掲載していきます。

「わっこ」に掲載された「こまえくぼ 1234 からのお知らせ」を見た市民からの「切手カフェ」「おりがみサロン」についての問い合わせや参加もあり、新しい参加者の獲得につながりました。広報媒体にに応じて掲載する内容などを工夫して情報を届けられるように検討をすすめます。

「わっこ」こまえがお mini 掲載記事内容	
6月1日号	「ブーメランは風を読んで飛ばせ」 超軽量ブーメランで遊ぶ会 香取忠治さん
9月1日号	「寄り添いあって生きること」 野川のえんがわ こまち 石川 歩さん
2月1日号	「人生はアートだ」 コマラジパーソナリティ・イラストレーター 野崎 淳之介さん

■「広報紙こまえくぼ 1234」の発行

「広報紙こまえくぼ 1234」を年間通して発行しました。この広報紙は、支援センターで行っている事業について紹介するとともに広報部会が作成した「こまえがお mini」の記事も掲載しました。

年4回の拡大号は、市内小学校・中学校の児童・生徒に配布、その他市内の施設や店舗等にも毎号設置にご協力いただき年 11 回発行しました。「こまえくぼ 1234 フェスティバル」では「広報紙では知っていたが初めて支援センターに訪れた」「広報紙は学校から子どもが持ってきて読んでいます」といった声も聞かれ、広報紙が多くの人に届いていることを実感しました。

読者アンケートの実施や職場体験実習にきた中学生に記事を書いてもらうなど市民の皆さんに関心を持って読んでいただき、市民活動への興味や参加につながるように紙面の工夫等をすすめています。

「広報紙こまえくぼ 1234」拡大号特集記事内容	
6月1日号	若者の居場所タルトタタン 「気軽に悩みを相談できる場に」
9月1日号	こまえ学習サポートプロジェクト 「学生たちの声から始まった学習フリースペース」
1月2月合併号	+new Company（プラスニューカンパニー） 「子ども達の成長の場であり、大勢の人たちに笑顔を届ける」 コンポストアドバイザー 後藤優美さん 「地球にも自分にもより良い、捨てない生活を始めてみませんか」
3月号	フィギュアノート普及会 HappyMuse（はぴみゅーず）

■ホームページ、SNS 等を活用した情報発信

新たに運用を開始した Twitter での情報発信やコマラジ、広報紙、ホームページを連動させた情報発信の取り組みを始めました。

コマラジでの市民活動団体を紹介する番組コーナーの協力とあわせて、支援センターもコマラジの番組に出演して事業の紹介やイベントの周知などの情報発信をしました。



その他、番組パーソナリティとの共催事業としての番組 PR を兼ねた展示会も開催しました。支援センター主催のイベントをコマラジ内の各番組内で紹介いただくなど情報発信の輪を広げました。

■屋外掲示板を活用した情報発信

屋外掲示板は、各登録団体からの申請により所定のスペースを自らがルールに基づいて管理する情報発信の場所として活用されています。掲示のルールに沿って登録団体が定期的に掲示物を交換しており、市民の皆さんが掲示板の前で足を止めて情報を見ている姿、掲示を見てイベントや活動に参加するなどの効果につながるようになりました。

2-4 市民活動の拠点

(1) 団体によるチャレンジ事業

支援センター登録団体・個人の優先利用として、フリースペースでのイベントと展示の利用を市民活動団体と共催して実施しました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の工夫をしながら、よみきかせ関係団体、子どもミュージカル団体、音楽系団体などが感染対策をしながらイベントを開催しました。また、市民活動団体による駐輪場を利用したイベントも初めて開催されました。

	利用回数	利用団体数
団体イベント利用 フリースペース、駐輪場を利用した団体主催のイベント等 ・絵本の読み聞かせ会 ・体験あそびワークショップ ・ダンスのワークショップ ・楽器演奏ワークショップ ・アプリを使った野菜おすそわけ会 など	15回	7団体
展示利用 フリースペース壁面を利用した作品等の展示 ・コマラジパーソナリティによる作品展示 ・当事者グループによる作品展示 など	5回	4団体

「わたしたちはここにいるよプロジェクト」

狛江市社会福祉協議会が開催した「福祉カレッジ 2022」卒業生の「同じ社会の一員でありながら障がいのある方と交流する機会が少ない《わたしたち》。」「アート展を通じて心のバリアフリーに一步踏み出す交流を始めたい」という想いに賛同した市民、障がい者施設関係者などがプロジェクトを立ち上げ「パラアート展」を開催しました。

パラアート展には 80 名近い来館者があり盛況な展示会となりました。



(2) 閲覧しやすい資料コーナーの設置

登録団体から発信される情報を多くの市民に見てもらうため、フリースペース内のレイアウトを工夫しました。

また、センターで実施した事業報告の掲示、センター事業を紹介する掲示物作成など来館者に情報を伝える工夫に取り組みました。

2-5

その他市民活動の推進に必要な事業

(1) 市民活動参加の機会の充実

■体験学習プログラムの実施及び見直し

コロナ禍の当初に体験学習部会が作成した動画を事前学習として視聴した後に実際の体験をするプログラムの流れを作り、小学校・中学校での体験学習で実施しました。新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、講師と教室をオンラインで結び実施するなど新しい実施方法を確立させました。

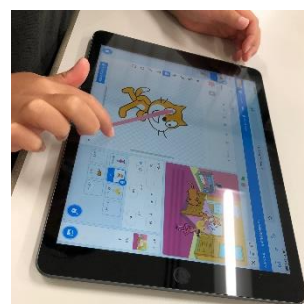
■体験ボランティアの見直し

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、高齢者施設等や保育園等でのボランティアの受け入れが難しい状態が続いています。

夏休み期間を中心とした体験ボランティアの実施時期も、受け入れ側の安全と参加者の安全を確保することが困難であるため、昨年度から実施した体験ボランティアを一部修正して行いました。

◇「初めてのプログラミング体験」

体験学習部会が開催する「はじめてのプログラミング体験」は新しく加入した部会員が役割を担い、市内事業所（ドコモショップ 狛江店）からタブレットを無償貸与いただき開催しました。学校と違う空間で自由にタブレットを使いプログラミングができることから子どもたちは楽しみながら参加していました。また保護者には、学校で行われている授業がプログラミング的思考であることの理解を深めてもらう機会となっています。



実施日	内容	参加者
令和4年 8月6日（土）	おもいをカタチに 体験@こまえくぼ 「はじめてのプログラミング体験」 会場：あいとびあセンター研修室 協力：ドコモショップ狛江店	小学生 10名
令和5年 2月4日（土）	おもいをカタチに 体験@こまえくぼ 「はじめてのプログラミング体験」 会場：西河原公民館 協力：ドコモショップ狛江店	小学生9名

◇「見えない人の世界を知ろう 狛江の点字体験と作成体験」

視覚障がい者と出会うことを通じて、視覚障がい者の生活を知って、参加した自分たちができることは何かを考えてもらうことを目的に開催しました。

体験プログラムは、視覚障がい当事者から日常生活についてお話・質問を受けながら点字・介助などを通じて理解を深めていく内容で開催しました。

実施日	内容	参加者
令和4年 8月20日（土）	おもいをカタチ 体験@こまえくぼ 「見えない人の世界を知ろう」 ※子ども、青少年向け1日講座	3名
令和4年 10月15日（土） 10月22日（土）	おもいをカタチ 体験@こまえくぼ 「見えない人の世界を知ろう」 ※成人向け1日講座	7名
令和4年 11月21日（月）	おもいをカタチ 体験@こまえくぼ 「見えない人の世界を知ろう」 ※成人向け1日講座	1名

◇「聞こえない人と zoom でおしゃべりしてみよう」

動画「聴覚障がいについていろいろ学ぼう」を事前学習に活用、感染対策として「zoom でおしゃべり」としてオンライン（zoom）を活用して市内手話サークル、聴覚障がい者と触れ合える喫茶店に協力をいただき交流を実施しました。

今年度は、体験者も自宅から参加、聴覚障がい者も自宅から参加する方式で実施しました。「そろそろ対面で」「zoom の利用だと画面設定に慣れない」といった意見もあるため、次年度以降の実施については新型コロナウイルス感染症の状況に合わせた企画が必要となっています。

実施日	内容	参加者
令和4年 8月7日（日）	おもいをカタチ 体験@こまえくぼ 「聞こえない人と zoom でおしゃべりしてみよう」 協力：手話サークル昼の部、手話サークル手のひら ハンズプレイスカフェ	3名
令和4年 8月17日（水）	おもいをカタチ 体験@こまえくぼ 「聞こえない人と zoom でおしゃべりしてみよう」 協力：手話サークル昼の部、手話サークル手のひら ハンズプレイスカフェ	3名

◇「おやこで学ぶ狛江の防災～多摩川水害から学ぼう～」

体験学習部会が作成した「多摩川水害の語り部」動画を活用して親子での防災イベントを狛江消防署との共催で体験イベントを開催しました。

狛江市で過去に起こった水害を動画で学び、狛江のハザードマップについて狛江市安心安全課から説明いただきました。また、令和元年台風 19 号での被害が発生した際に立ち上がった災害ボランティアセンターについて説明を行い、市民の助け合いによる活動で被災者が一日も早く元の生活に戻るよう支援した事例の紹介などをしました。

狛江消防署の協力により消火体験、防火服装着体験、はしご車体験など消防の活動に触れる機会となり、狛江市での防災を親子で考えてもらう 1 日になりました。



実施日	内容	参加者
令和4年 8月27日(土)	おもいをカタチ 体験@こまえくぼ 「おやこで学ぶ 狛江の防災」 協力：狛江消防署、狛江市総務部安心安全課 狛江市社会福祉協議会災害ボランティアセンター 内容：多摩川水害に関する動画視聴 ハザードマップの確認 台風19号での消防署の活動紹介 災害ボランティアセンターの活動紹介 はしご車・放水体験、消防車両見学	18名 (9家族)

◇「地域ふれあい体験プログラム2022

～力をあわせて狛江の街をお花で盛り上げよう～

JA マインズ狛江店女性部に協力をいただき、ベネッセ狛江南保育園（5歳児・12名）とともに「力を合わせて狛江の街を盛り上げよう」を実施しました。

きれいな街は、防犯効果があることを園児に伝え、JA マインズ狛江支店女性部の指導のもとで「お花が咲いてキレイで安心な街を作ろう」と一人ひとりのプランターに花の苗を植えました。プランターは、保育園に持ち帰り、園児が数週間植えた苗が根付くまでお世話をしました。お花が育ったプランターは、市内6事業所の店頭飾ってもらうために園児が届けることで市内事業所との交流にもなりました。



実施日	内容	参加者
令和4年 8月27日(土)	おもいをカタチ 体験@こまえくぼ 「地域ふれあい体験プログラム2022 ～力を合わせて狛江の街をお花で盛り上げよう～」 指導：JA マインズ狛江店女性部 参加：ベネッセ狛江南保育園5歳児クラス 協力：木村メガネ、藤田不動産、絹山不動産 みずほ銀行狛江店、au ショップ狛江 ドコモショップ狛江店	園児12名

■体験学習

幼稚園・保育園、小学校・中学校からの体験学習の依頼に対して、出前講座や体験学習協力を行いました。

「幼稚園・保育園等への支援」

市内保育園より車いす体験と手話体験の依頼がありコーディネートをしました。新型コロナウイルス感染症への感染が懸念される中での開催でしたので手指消毒や機器類の消毒など園児への感染対策を取りながら実施しました。

実施日	訪問先等	
令和4年5月25日	いずみ保育園	車いす体験（ふくしえほん）
令和4年6月22日	ベネッセ狛江南保育園	車いす体験（ふくしえほん）
令和4年6月29日	藤塚保育園	車いす体験（ふくしえほん）
令和4年7月4日	藤塚保育園	手話体験
令和4年7月6日	三島保育園	車いす体験（ふくしえほん）
令和4年7月29日	藤塚保育園	車いす体験（ふくしえほん）
令和4年8月31日	駒井保育園	車いす体験（ふくしえほん）
令和4年11月9日	木下の保育園岩戸北	車いす体験
令和4年11月14日	ベネッセ狛江南保育園	車いす体験
令和5年1月26日	木下の保育園岩戸北	手話体験
令和5年3月20日	ベネッセ狛江南保育園	視覚障がいについて

「小学校・中学校への支援」

市内小学校3校・中学校1校からの授業協力の依頼がありました。

事前学習として体験学習部会が作成した「福祉体験学習動画（障がい者理解）」を視聴してから体験を実施する授業形式で行いました。講師となる障がい者が学校を訪問して体験授業を実施したほか、講師と教室をオンラインでつなぎ講義をする、点字体験で作成した点字を市民活動団体が添削するなど感染対策を取りながら児童・生徒とつながる形で実施ができました。

実施日	実施学校等		
令和4年6月15日	狛江市第六小学校	4年生	高齢者体験、高齢者の生活についての説明（協力：イリーゼ狛江）

令和4年7月9日	狛江第五小学校	5年生	車いす体験（第四育成会より依頼）
令和4年9月10日	狛江第一小学校	4年生	多摩川水害について学ぶ（協力：語り部2名、狛江市安心安全課）
令和4年9月12日	狛江第一小学校	4年生	多摩川水害について学習発表会
令和4年9月16日	狛江第六小学校	3年生	車いすユーザーのオンライン講義 車いす体験（zoom 併用 協力：1名）
令和4年10月3日	狛江第六小学校	3年生	視覚障がい者のオンライン講義 点字体験（協力：1名） 点字添削：点訳サークルこすもす
令和4年10月21日	狛江第六小学校	3年生	視覚障がい者のオンライン講義、アイマスク体験（協力：8名）
令和5年1月16日	狛江第一小学校	4年生	視覚障がい体験（協力：5名）
令和5年1月18日	狛江第一小学校	4年生	聴覚障がい体験・手話体験（協力：12名）
令和5年1月19日	狛江第一小学校	4年生	高齢者疑似体験（協力：1名）
令和5年2月10日	狛江第一中学校	1年生	視覚障がい者による講義（協力：1名） 視覚障がい体験
令和5年2月18日	狛江第一小学校	4年生	体験学習発表会
令和5年3月14日	狛江第一小学校	4年生	LGBTQについて 協力：コンテューゴあなたといっしょ、 体験学習部会

■その他の体験学習

体験学習部会では、小学校からの依頼を受けて「LGBTQ」に関する体験学習プログラムの作成を市民活動団体と協力して新しいテーマに取り組みました。小学校の先生とも打ち合わせを重ね、子どもたちに伝えたい内容を考えた出前授業を実施することができました。

このテーマについては、学校や先生のニーズを市民活動団体と調整して内容を検討しながら今後も進めていく予定です。



■市民活動を始めるきっかけづくり

運営委員をメンバーとする検討チームにて市民活動を始めるきっかけとなる事業内容を検討、市民活動への参加のきっかけとして「どういう形であれボランティアや市民活動に触れる機会をつくる」ことが重要という意見があがりま

した。市民参加と市民協働に関する審議会の実行委員グループと合同で「第6回粕江☆サミット」で新しい活動層を増やすことを目的とした開催内容の検討、開催に向けての準備を連携して行いました。

運営委員検討チームメンバーと市民参加と市民協働に関する審議会の実行委員が協働することで課題などの共有する機会となっています。

「おりがみサロン」開催

おりがみを通して施設や市民活動の場面でのボランティア活動につながる動きのきっかけとするため、市民の交流とあわせて「おりがみボランティア」の育成を目的として「おりがみサロン」を年12回（毎月第一水曜日）に実施しました。また、老人クラブでのおりがみ教室に講師補助として「おりがみサロン」参加者が協力したり、参加者の作品を障がい者施設に寄贈するなど支援センター内の活動から地域との繋がり、地域に出ている活動に広がってきました。



（2）団体向け講座

市民活動団体同士が団体内の課題解決だけでなく、団体同士の情報共有、交換しながら交流を深める機会として講座を実施しています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されていく中でしたが活動休止を継続している団体が多くありました。そうした団体の活動再開や今後の活動を支援するために団体の基盤（資金・事業計画・広報）を考える講座を実施しました。

実施日	内容	参加者
令和4年 4月27日（水）	おもいをカタチに 学ぼう@こまえくぼ 「団体のミライを考えるプランを作ろう」 講師：喜田 亮子さん （町田市地域サポートオフィス事務局長） 内容：事業計画を作成するにあたり、団体の理念や使命を改めて考える。	2団体 3名
令和4年 7月2日（土）	おもいをカタチに 学ぼう@こまえくぼ 「市民活動とお金」 講師：関口 宏聡さん（NPO法人セイエン代表理事）	4団体 5名 （見学1名）

令和5年 3月5日(日)	おもいをカタチに 学ぼう@こまえくぼ 「カリスマ講師に学ぶ 人が集まるチラシと広報のコツ」 講師：坂田 静香さん(NPO 法人男女共同参画おた)	10名
-----------------	---	-----

(3) 社会資源の活用推進

社会資源（活動場所）の情報を一元化してホームページに掲載しています。

この情報について運営委員による検討チームで市民活動している団体が活用するにあたって有用となる内容についての情報の精査と検討を進めました。

また、新しい情報の収集や情報確認に検討チームで取り組んでいます。

(4) 市民活動の側面的支援

■保険の加入受付や相談

ボランティア・市民活動を安心して行うための支援としてボランティア保険と行事保険があります。支援センターでは、これらの保険の取扱窓口として保険加入の対応も行いました。

- ・ボランティア保険加入 1,860名
- ・行事保険加入 128件(4,000名)

■備品等の貸出

アンプ、プロジェクターなどの備品類の貸出は、1件のみでした。まだまだアンプやプロジェクターを使用するような人が集まる企画などの開催には新型コロナウイルス感染症による影響が残っているようです。

■寄付文化の醸成

支援センターが常設の食品回収場所として協力しているNPOフードバンク 狛江が実施するフードドライブ事業には、多くの市民が食品寄贈のために来館されています。市民が社会貢献として食品寄贈ができる場所として活用され、協力の輪が広がってきています。

■回収活動

使用済み切手や使用済みインクカートリッジなどを回収し、ボランティア・市民活動へ還元しています。

使用済み切手を整理するボランティア活動である「切手カフェ」は、ボランティア活動の入口として参加していただいています。使用済み切手で得た収入

は、ボランティア活動を始めるきっかけとしての「おりがみサロン」での消耗品の購入経費に充当しています。

「わっこ」での「おりがみサロン」開催の記事を目にかけ、多くの方が参加していますが、活動で使う使用済み切手が集まらないという状況がありました。こうした状況に対して市内外のCSR登録事業所が趣旨に賛同して、使用済み切手の提供にご協力いただきました。

「切手カフェ」開催

使用済み切手についている台紙を既定のサイズにハサミを使い整理するボランティア活動です。

毎月2回（第2・3金曜日）に開催しました。気軽に参加できるボランティア活動として「わっこ」を見た方など多くの方に参加いただいています。参加者同士で粕江市内の生活情報を交換するなど参加するボランティアの交流の場にもなっています。



（5）近隣及び都域の市民活動センター等との連携

■近隣5市のボランティアセンター・市民活動支援センターとの連携

北多摩南部ブロック社協5市（府中市、調布市、三鷹市、小金井市、粕江市）のボランティア・市民活動支援センターでは、地域課題や各地域の状況に関する情報交換などを実施しています。

（6）調査・研究

昨年度実施した「市民活動に関する市民活動団体のアンケート」の調査結果から地域の課題について精査してきました。

調査結果から粕江市における市民活動団体の傾向について運営委員による検討チームで分析を行い、粕江市とも結果の共有をしました。この調査結果と分析から今後の支援センターの取り組むべき方向性について引き続き検討していきます。

3

施設管理

3-1

施設利用状況

■施設利用状況

令和4年度の利用者数は 6,607 人と昨年度（4,167 人）を上回る結果となり、支援センター開館以降の最高来館者数になりました。年度当初からの新型コロナウイルス感染症による利用制限もなく、感染対策を踏まえて市民活動団体が少しずつ動き出すことができる状況になってきたこと、支援センター主催のイベントなどで多くの市民が来館する機会が作れたことが原因と考えています。

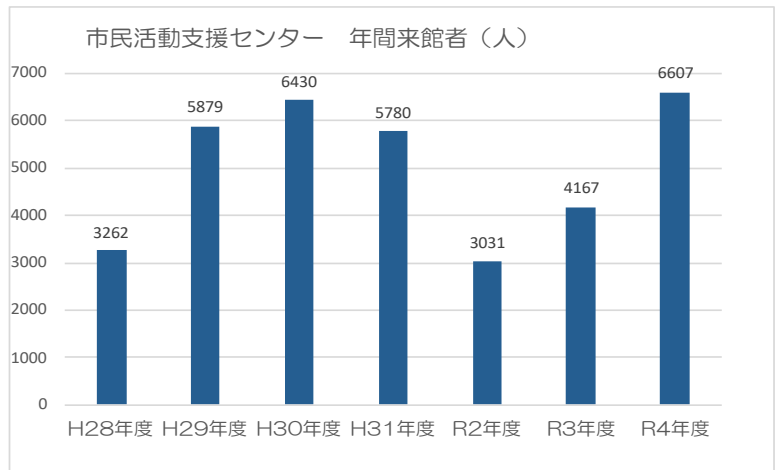
利用状況をみると、センター事業での来館が最も多かったです。打合せ等での来館も約 29%と多く、人が集まる機会が増えてきたことが分かる結果となっています。例年同様、決まった事務所や活動場所がない団体にとっては、ちょっとした打ち合わせなどで利用がしやすい場所として活用されています。

また、センターの登録は、248 団体、個人 131 名、社会貢献活動をしている事業所（CSR 活動）の登録も 55 件に増えてきています。

年間来館数

6,607 名

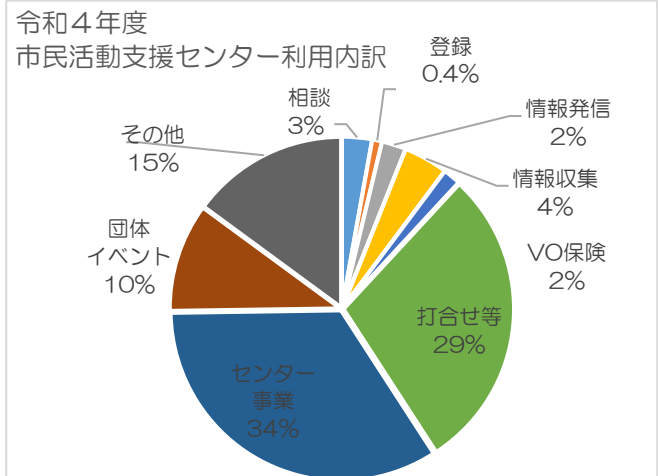
前年度比 2440 名増
開館以降、最高来館者数になりました。



支援センター利用内訳

打合せ 29%

支援センター主催事業以外では、団体メンバーが気軽に集まり、打合せ等での利用に活用されました。



4

指定管理の収支状況

4-1

指定管理業務の収支状況

■指定管理業務の収支状況（令和4年度）

（単位：千円）

			令和4年度	令和3年度	増減
収入	内訳	狛江市受託金収入	37,165	35,370	1,795
		参加費収入	0	0	0
		その他収入	111	149	△38
		法人からの繰入金	0	0	0
	収入合計		37,276	35,519	1,757
支出	内訳	人件費支出	31,242	30,254	988
		事業費等支出	6,034	5,265	769
	支出合計		37,276	35,519	1,757

5

その他指定者が指示する事項

5-1

施設の維持管理

(1) 清掃業務

- ・ 日常作業で実施(開所日)
- ・ クリーンこまめに清掃業務委託(毎週金曜日)

(2) 修繕

- ・ 支援センター外灯の電球交換

(3) 施設点検(京王設備サービス)

- ・ 消防設備点検(8月・3月)
- ・ 空調機法令点検、床清掃(2月)

(4) その他整備など

- ・ 飛沫防止シートを窓口に設置
- ・ フリースペース デスク配置の変更、消毒液の設置
- ・ 飛沫対策パーテーション設置
- ・ フリースペース窓開放による常時室内換気
- ・ 来館者使用後の設備のアルコール消毒実施
- ・ 閉館後の施設内アルコール消毒

5-2

サービスの維持向上

(1) 利用者からの要望


- ・ 要望等は、ありませんでした。

(2) その他


- ・ 支援センター職員の体温記録の実施

資 料

主な団体向け事業の実施報告書

事業名	学ぼう@こまえくぼ 団体向け講座「団体の未来を考えるプランを作ろう」
目的	<p>年度の切替えと次年度の補助金申請が始まる時期を迎え、いろいろな手続きの更新や申請などで事業報告や事業計画が必要となる。また、市民活動を始めたいという相談が少しずつ増え始めていて、少人数でも団体として活動していくときにどのように事業計画を作ればいいのかという問い合わせもある。各団体が目指すところはどこなのか、団体が地域で活動していくときの根幹となる理念や使命を改めて考える機会をつくり、それぞれの団体の計画づくりに役立てる。</p>
日時	令和4年4月27日（水）13時30分～15時
会場	こまえくぼフリースペース
参加者	2団体3名
実施概要	<p>[講義とワーク] 講師：喜田亮子氏（町田市地域活動サポートオフィス事務局長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンを考える ・各人が目指すビジョンを絵に描いて視覚化し、他の参加者に話す。
成果	<p>事業計画を作る際に大切なビジョンとミッションなど分かりやすい講師の講義内容と少人数だったことで参加者からの発言がしやすく、講師と深く話をする事ができていた。</p> <p>講座終了後のアンケートでは、「講師の話が分かりやすくなった」「大変参考になった」など満足度の高い評価を得ることができた。</p>
課題	<p>参加したいが参加できなかった団体もあり、開催日の設定が難しい。</p> <p>参加数が思うように増えず、周知開始の時期と周知方法がうまく合わなかったため早めに周知の声掛けをしていくようにしたい。</p>
	

事業名	学ぼう@こまえくぼ 団体向け講座「市民活動とお金」
目的	非営利の団体にとっては、活動を続けていく際に資金をどのように整えていくかという問題は大きく、補助金や助成金だけでは賅いきれないことが多い。市民活動団体の活動を支える要素としての資金を団体の性質に応じてどのように組み立てをしていけばよいのか、基本となるお金についての考え方について学ぶ機会とする。
日時	令和4年7月2日（土）10時15分～正午
会場	こまえくぼフリースペース
参加者	4団体5名+1名（昭島市から見学）
実施概要	<p>[講義とワーク]</p> <p>講師：関口 宏聡 氏（NPO法人セイエン代表理事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動にかかわるお金の種類と特徴 ・資金を活かすためのポイント
成果	<p>設立後間もない団体が活動していくために、必要なお金の知識について学ぶ機会を確保できた。参加団体にとっても満足度は高かった。講座内容に興味を持った他市からの見学もあった。</p>
課題	<p>1回の講座で行うには内容が濃かったため、予定の時間では足りず延長して実施することになった。そのためワークの時間も十分とは言い切れず、参加者が物足りなさを感じるようになった。</p> <p>1つのテーマに対して、時間を延ばすか、複数回に分けて実施するか検討が必要である。</p>
	

事業名	学ぼう@こまえくぼ 団体向け講座「人が集まるチラシと広報のコツ」
目的	ボランティア・市民活動団体が実施するイベントでは知人以外の人への参加が少なかったり、担い手の募集もなかなか人が集まらなかったりすることが多い。アンケート結果でもチラシやポスターなどでの情報発信手段が約半数を占めていることがわかっている。チラシを通して広報のコツを学ぶ機会とする。
日時	令和5年3月5日（日）10時～12時
会場	こまえくぼフリースペース
参加者	7団体 10名 （その他：手話通訳2名、要約筆記4名）
実施概要	<p>[講義とグループワーク]</p> <p>講師：坂田 静香氏（NPO 法人男女共同参画おおた 理事長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師自己紹介 ・人の集まらない講座の言い訳 ・企画力向上ワーク ・「企画力」と「応報力」向上のために ・手に取ってもらえるチラシづくりのポイント ・キャッチコピーは集客に重要な要素 ・最も大切なことは？
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果から満足度の高い講座となった。 ・グループワークがあることで、参加者が積極的に意見を交わし団体同士のコミュニケーションも図られ新しいつながりの機会が作れた。 ・聴覚障がいのある方が参加したこともあり、普段関わり合うことがない団体同士が出会うことができた。 ・手話通訳、要約筆記をつけたことで、聴覚障がいのある方の参加ができたと同時に、主催者側としての配慮すべき点（聴覚障がいのある方の座席と要約筆記の画面の位置関係など）がわかり、次回開催時の改善点が得られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の雰囲気は活発になっていたこともあり途中の休憩を入れずに進めたが、参加者の年齢層も様々で、休憩を入れたほうがよかった。 ・要約筆記の投影にテレビ画面を使用したため、座席に座っている人から見えにくくなってしまったので、見えやすい位置に設定するようにする。
	

事業名	出前授業（福祉体験）サポーター養成講座
目的	ボランティア・市民活動を始めるきっかけとして、市内の幼稚園・保育園、小中学校での体験学習の機会を活用し、子ども達に教えたり見守りをしていくサポーター（ボランティア）として活動できるための講座を行う。（最終的には出前講座のできるグループを目指す）
日時	令和4年12月14日（水） ①10時～正午 ②18時30分～20時30分
会場	市民活動支援センター こまえくぼ 1234
参加者	①3名 ②3名 計6名
実施概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ、講座の目的について 2 小中学校での体験学習について 全体の流れと種類 3 実際に体験学習を体験する 車いす体験、アイマスク・誘導体験、高齢者疑似体験 操作の仕方とサポート時の心構え、など 4 質疑応答 5 アンケート、終了
成果	具体的な講座として実施したので、参加者の意識が高く中身の濃い講座となった。参加者6名の内、5名がサポーター登録をすることとなった。
課題	それぞれ個人でのサポートからグループ化へ向けていくまでの方法は今後の課題となる。
	

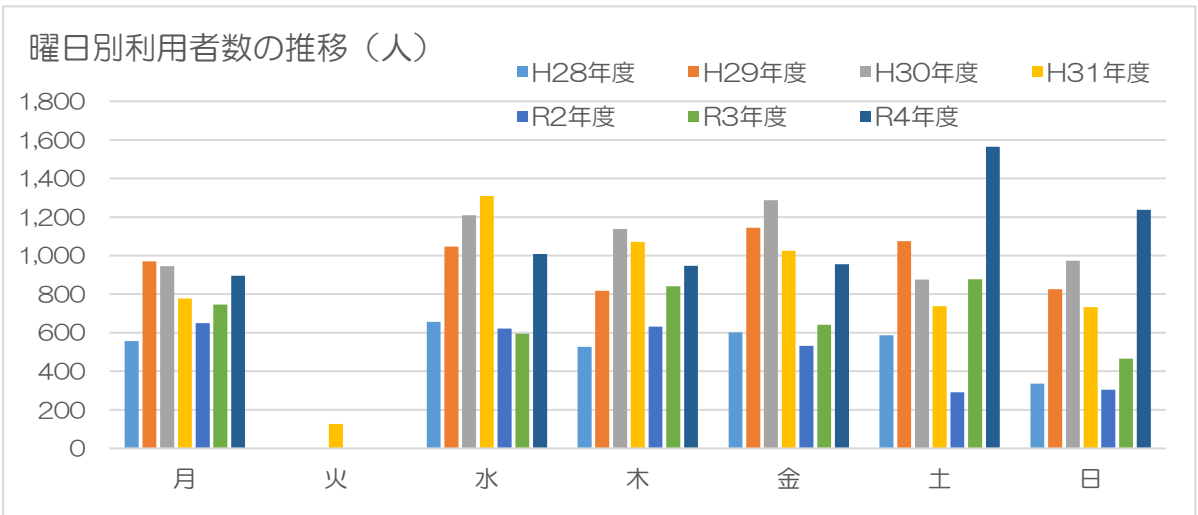
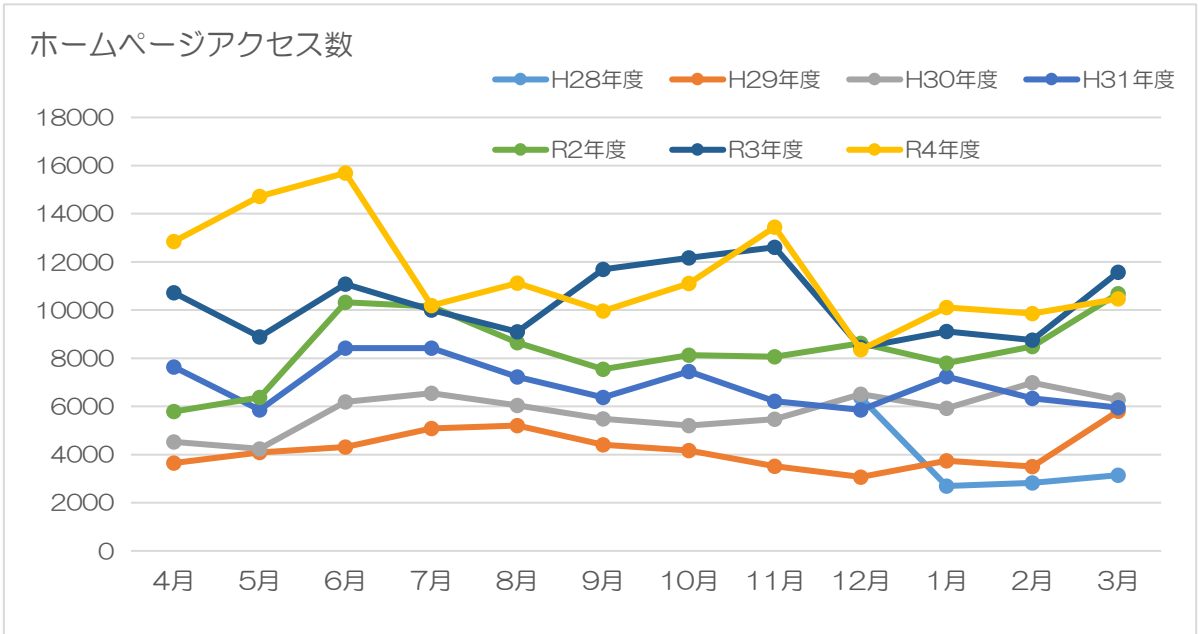
令和4年度 コマラジ出演団体一覧

番組名	: コマラジ「KOMAE AM フライデーアートサーカス」
番組放送時間	: 毎週金曜日 8時～11時
番組パーソナリティ	: 野崎 淳之介さん
番組パートナー	: 松浦 森郎さん
番組内コーナー	: 狛江生活情報コーナー（10時～10時30分）
出演日	団体名
令和4年4月8日	狛江市市民活動支援センター
令和4年4月15日	comaecolor
令和4年4月22日	合気道倶楽部養氣會
令和4年4月29日	狛江要約筆記サークルこまくさ
令和4年5月6日	狛江市民生委員児童委員協議会
令和4年5月20日	狛江市市民活動支援センター
令和4年5月27日	若者の居場所タルトタタン
令和4年6月3日	こまえくぼ応援隊
令和4年6月10日	キタコマ映画祭
令和4年6月17日	狛江市市民活動支援センター
令和4年6月24日	NPO 法人フードバンク狛江
令和4年7月1日	多摩川いかだレース実行委員会
令和4年7月8日	+new Company(プラスニューカンパニー)
令和4年7月15日	狛江市市民活動支援センター
令和4年7月22日	みんなで〇〇狛江
令和4年7月29日	サポートセンターりんく
令和4年8月5日	こまえ平和フェスタ実行委員会
令和4年8月12日	狛江市市民活動支援センター
令和4年8月26日	多摩川いかだレース実行委員会
令和4年9月9日	狛江市市民活動支援センター
令和4年9月16日	ESA アジア教育支援の会
令和4年9月30日	サポートセンターりんく
令和4年10月7日	上手いもの市実行委員会
令和4年10月14日	調布学園
令和4年10月21日	狛江市市民活動支援センター
令和4年10月28日	こまえくぼ 1234 応援隊
令和4年11月4日	ESA アジア教育支援の会

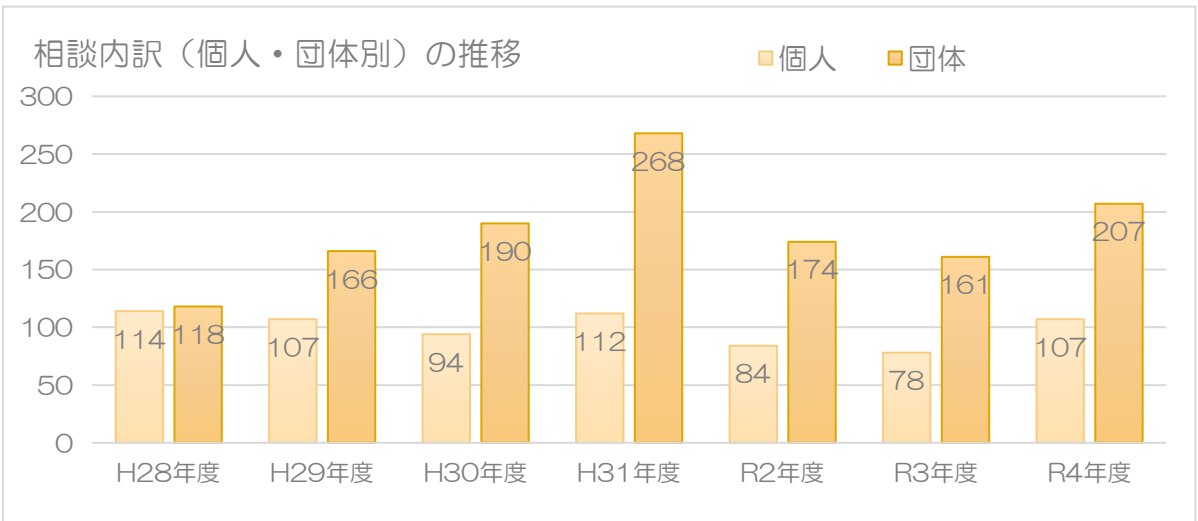
令和4年11月11日	狛江市市民活動支援センター
令和4年11月18日	NPO フードバンク狛江
令和4年11月25日	+new Company(プラスニューカンパニー)
令和4年12月2日	養氣會狛江合氣道倶楽部
令和4年12月9日	狛江市市民活動支援センター
令和4年12月16日	狛江市環境保全実施計画緑ケキョウグループ
令和4年12月23日	サポートセンターりんく
令和5年1月13日	狛江市市民活動支援センター
令和5年1月20日	はぴみゅーずフィギュアノート研究会
令和5年1月27日	こまえくぼ体験学習部会
令和5年2月10日	NPO フードバンク狛江
令和5年2月17日	狛江市障害者団体連絡協議会
令和5年2月24日	狛江市文化講演推進会
令和5年3月3日	わたしたちはここにいるよプロジェクト
令和5年3月10日	狛江市市民活動支援センター
令和5年3月17日	comarch (こまち)
令和5年3月24日	“ほっと” サロン
令和5年3月31日	いきいき体操クラブ
<p>番組名 : コマラジ「麻宮百のスマイルラジオ」 番組放送時間 : 第一・第三水曜日 12時～14時 番組パーソナリティ : 麻宮 百さん 番組内コーナー : こまえのいいところ (12時15分～12時30分) ※番組内、絵本紹介コーナーには、 市内絵本読み聞かせ団体が出演</p>	
令和4年12月7日	狛江市市民活動支援センター
令和5年3月1日	狛江市市民活動支援センター
<p>番組名 : コマラジ「アフタヌーンナビ」 番組放送時間 : 金曜日 12時～14時 番組パーソナリティ : 香月 りささん 番組内コーナー : 狛江フェスティバルでの高校生ボランティアについて紹介</p>	
令和4年9月9日(金)	狛江市市民活動支援センター



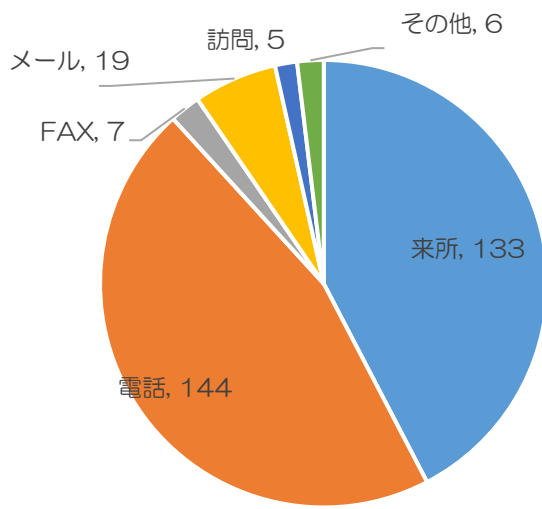
【参考資料】



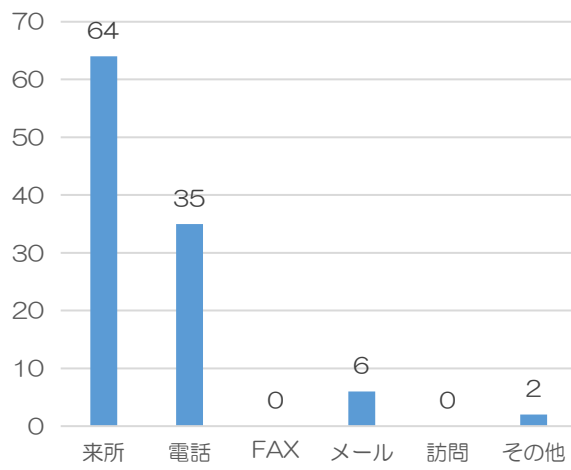
※平成31年度は、2か月間のみ火曜開館、月曜休館を試行



令和4年度 初回相談方法



初回相談方法（個人）



初回相談方法（団体）

